

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月14日
函館市立赤川小学校

1 本年度の重点教育目標

考え、粘り強く、挑戦する子
～主体的に物事と向き合い、学びを生かせる子の育成～

2 本年度の取組の重点

- 【施策1】学力向上……①「わかる・できる」を実感できる授業改善
②ICTの効果的な活用
【施策2】豊かな心……③特別の教科「道徳」の授業の充実
④いじめ防止（見逃し0ゼロ）の取組の充実
【施策3】健やかな体…⑤食育指導や基本的な生活習慣改善の充実
【施策4】業務改善……⑥教職員における業務改善の一層の推進
【施策5】地域連携……⑦学校運営協議会（CS）を核とした地域と連携した取組の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
施策1	①基礎・基本の定着を図る学習指導や授業改善を進めることができたか。	b	学力検査等の分析をもとに本校児童の弱点を共通理解し、「わかった・できた」を実感できる授業のあり方に視点をあてた研修を充実していく。	A	A	
	②一人一台端末を効果的に活用した授業実践を進めることができたか。	b	日常的な活用を継続するとともに、教師のスキルアップを図るための研修を行う。	A	A	教科書の文字をじっくり読ませることもぜひ時間をかけてください。
施策2	③日常生活に生きる道徳性を育む道徳教育の充実を図ることができたか。	a	道徳の授業だけでなく教育活動全体を通して、相手を思いやる心や生命を大切にする心、善悪を判断等の道徳性を身につけることができた。	A	A	
	④挨拶や声掛け、アンケート調査等を活用し、子どもの心に寄り添う実践を進めることができたか。	a	年2回のアンケート調査や教職員の児童の見取りから日常的に子どもの情報を教職員間で共有し、いじめの未然防止、早期発見に努めた。	A	A	
施策3	⑤栄養教諭等と連携した食育指導やチェックシートを活用し家庭と連携しながら基本的な生活習慣の改善を図ることができたか。	a	高学年は民間と連携し食育指導を行った。3学期始めに生活リズムチェックシートを活用し家庭と連携し生活リズムの改善を図った。	A	A	
施策4	⑥学校における業務改善に向けた取り組みを進めることができたか。	b	授業時数の削減や通信表の所見欄改訂などを行い、子どもと向き合う時間の確保をすることができた。業務の平準化や縮減を図っていきたい。	A	A	子供と向き合う時間の確保を重要視していることが時間できる。今後も継続を願う。
施策5	⑦CSへの理解を深めるとともに、地域や幼保小中の連携をさらに深めることができたか。	b	赤川認定こども園との連携は成果と課題を生かし充実させることができた。CSは次年度以降にPTAに意義等を周知していきたい。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。